

2019年 3月12日

職種	教授もしくは准教授
募集人員	1名
所属および勤務場所	教員組織：京都大学人間・環境学系 教育研究組織：京都大学大学院人間・環境学研究科 共生人間学専攻 人間社会論講座 文化社会論分野 所在地：京都市左京区吉田二本松町
専門分野	映画研究
担当授業科目	下記の授業科目（いずれも半期科目）及び論文指導 （人間・環境学研究科）文化社会論分野の講義科目、演習、特別演習など。 （総合人間学部）人間科学系文化社会論関係の専門科目（講義、演習）など。 （全学共通科目）英語リーディング、外国文献研究-E1（全学共通科目は半期科目合計8コマ）。
着任時期	2020年4月1日
応募資格	（1）映画・アニメーション研究について、広く学部、大学院修士、博士課程学生の教育研究指導にあたることができること。 （2）映画メディア研究あるいは関連分野で博士の学位を有するか、もしくはそれと同等以上の研究業績を有すること。 （3）アメリカ映画、アニメーション、実験映像、映像メディア理論、ドキュメンタリー、日本以外のアジア映画のうちいずれか一つ以上の専門分野で優れた研究業績があること。 （4）全学共通科目（英語）を担当する能力、意欲、責任感があること。大学等の高等教育機関における英語教育歴があることが望ましい。 （5）英語の高度な運用能力があること。 （6）授業、学生指導、学内業務を行うに十分な日本語の運用能力があること。
勤務形態	常勤（任期なし）、裁量労働制（週38時間45分相当、1日7時間45分相当） 休日：土・日曜日、祝日、年末年始、創立記念日、夏季一斉休業日
給与・手当等	本学支給基準に基づき支給
試用期間	あり（6ヶ月）
社会保険等	文部科学省共済組合、厚生年金、雇用保険及び労災保険に加入
提出書類	（1）履歴書（様式自由。高等学校卒業以降の学歴・職歴、現住所・電話番号・電子メールアドレス、受賞歴、獲得資金、所属学会を記載）。 （2）研究業績一覧。著書（単著）、著書（共著）、査読付論文、査読なし論文、その他に分け、発表順に記載。印刷中ないし印刷予定については出版証明書などを添付。 （3）主要研究業績3点。うち少なくとも1本は英語であること。 （4）これまでの研究および専門教育歴、その特色と今後の計画の概要説明（英語、A4で2ページ程度）。 （5）京都大学の全学共通教育における英語教育に対する抱負（日本語1,500字程度）。 （6）大学院授業のシラバス。映画・アニメーション研究のうち自分の専門分野について、本研究科博士前期（修士）課程初年度の学生を対象とした、1学期（授業15回）分の授業のもの（日本語もしくは英語）。 （7）応募者について照会可能な方2名の氏名、連絡先（電子メールアドレス、住所、電話番号）。 *（1）（2）（7）の内容をあわせて英語のcurriculum vitaeとしてもかまいません。

選考方法	提出書類に基づいて選考します。選考の過程で面接・模擬授業を行うことがあります。その際の交通費・滞在費は応募者の自己負担とします。選考結果は、学域会議決定後に通知します。
応募締切日	応募締切日：2019年4月25日（木）午後5:00（日本時間）必着
書類送付先・送付方法	<p>提出書類（1）～（7）をPDFもしくはMS Wordのファイルとして添付し、下記に電子メールにて提出して下さい。メールの件名には必ず「11講座文化社会論分野応募」と明記ください。</p> <p>京都大学大学院人間・環境学研究科 総務掛 E-mail: 110soumu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp（*の代わりに@を入れて下さい）</p> <p>なお、提出書類（3）主要研究業績については郵送することも可能ですが、その場合、それぞれ5部（うち4部はコピー可）を、下記に郵便書留にてお願いします。封筒には「11講座文化社会論分野応募」と朱書して下さい。</p> <p>〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 京都大学大学院人間・環境学研究科 研究科長 杉山 雅人 宛</p> <p>*提出書類は返却しませんが、郵送された著書・博士論文の原本については、申し出があれば料金受取人払いで返送します。</p>
問い合わせ先	<p>京都大学大学院人間・環境学研究科 共生人間学専攻 木下千花 E-mail: kinoshita.chika.2r@kyoto-u.ac.jp（*の代わりに@を入れて下さい） 問い合わせは、電子メールによるものに限ります。</p>
男女共同参画	京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待します。
その他	<p>提出していただいた書類は、採用審査のみに使用します。 正当な理由なく第三者への開示、譲渡および貸与を行うことは一切ありません。 人間・環境学研究科については下記のwebページをご覧ください。 http://www.h.kyoto-u.ac.jp/ なお、地球環境学堂へ流動教員として異動の可能性もあります。</p>